

## □1月11日説教(隅野徹牧師)短縮版 「主の救いを見なさい」(出エジプト記14:5～18)

私が中心として語りたいのは13、14節です。「神の声なんかにしたがって出発すべきでなかった。奴隸に戻った方がよかつた」そんなとんでもないことをいう民たちですが、神はそれでもお見捨てになりません。むしろ、私だけが救い主だということを教え、人間の力を超えた特別な奇跡の業によって救い出して下さるのです。

ファラオの軍勢はえり抜きの戦車で追ってきたと6節にあります。当時世界最強レベルであったエジプト軍のえりぬきの部隊なのですから、人間の結集出来る最強の力だったことを聖書は表します。一方神はモーセを通して、落ち着いて静かにすることを命じます。

このことがあってはじめて、開くはずのない海の底に道ができる、そこを渡ることができたという、葦の海の奇跡が起こったのだと聖書は教えます。絶体絶命のピンチにモーセが杖を上げたことで、海が割れるという奇跡があつて逃げることができた、という摩訶不思議な伝説がただ書かれているではありません。葦の海の奇跡は新約時代を生きる私たちともつながる、大切な出来事なのです。私たちは罪深く弱い、罪の奴隸のような者たちです。聖書全体が教えるように、罪深い私たちと創造主、聖なる神との間には大きな隔たりがあり、そのままでは神のおられるところへ渡っていけない私たちです。しかし私たちのために橋渡しをして下さる方があります。それが、私たちを罪から救い出すために、人となってこの世に来てくださった神の独り子イエス・キリストです。このキリストの名によって洗礼を受けることにおいて、イスラエルの民があの葦の海の奇跡によって体験したのと同じように、本当なら渡ることのできないものを、神の力によつて渡ることができるのです。(終)